トルコ鞍空洞症候群 empty sella syndrome

2010 年 10 月

下垂体は脳の視床下部という部分にぶら下がったさくらんぼのような臓器です。いろいろなホルモンを分泌しておりますが、中でも、睡眠と関連するのは成長ホルモンです。そう、「寝る子は育つ」のホルモンです。このホルモンが過剰に分泌される末端肥大症では、舌が硬く大きくなって無呼吸の原因となります。この疾患は、下垂体の受け皿となる骨が大きく膨らむのが特徴で、体の症状が出る前にレントゲンで発見されることがあります。

すわ末端肥大症、と思って MRI 検査をしてみると、中が空っぽ、それが「トルコ鞍空洞症候群」です。下垂体が小さくなってホルモンの分泌が障害され、さらに食欲をつかさどる視床下部にまで影響がおよぶため、肥満の原因となります。

いずれにしろ、レントゲンでトルコ鞍を観察することは重要なのです。